

島根の地域医療

第13号 島根県健康福祉部医療対策課 '05, July, 01
e-mail: iryou@pref.shimane.lg.jp
▲いつでもどこでも適切な医療が受けられる島根を目指して▼



事務局からこんにちは！

◆今回は、本年2月に隠岐の島町において頂いた赤ひげ先生から近況報告してもらいました。本多先生には末永く地域医療に携わってもらうとともに、御活躍を祈念いたすところです。島根県は応援しています！

地域医療最前線その17

-隠岐の赤ひげ医師から-

今年2月、診療所での医療がしたくて赤ひげバンクを通して隠岐の診療所にやってきました。実質は、五十代の診療所研修医と言ったほうがいいくらいで、残念ながら、

まだ診療所での診療を楽しむところまではいっておりません。自治医大出身の医師と違い、医師としての経験は二十五年ありましたが、大半は病院の勤務医としての経験ばかりで、各科研修はもちろん受けたことはありませんし、胃カメラは二十年間も触った事もなく、まして心臓のエコー検査などはしたこともありません。現在宝の持ち腐れとなっている診療所の診断機器を見るたびに、ため息が出ると同時に、なんと自治医科大学出身の医師は恵まれた研修をしているのだろうと羨ましくなります。

もともと、診療所での勤務は考えたこともありませんでした。以前は、自分の専門性を生かして診療をしていたら良いと考えていましたから。自分なりに、出来るだけ病気だけでなく、生活している一人の方が持っている病気として捉えるようにしていましたが、病院での診療はその性格上、専門性が一番になります。病院に勤務している医師の方には、専門性、最先



端医療が大切と考え、患者を全体として診ることが弱くなっている医師も出てきています。このような中で、病院の中で働くこと、病院での医療に疑問をもち、とうとう三年前に勤務医を辞めてしまいました。それまでの反動かも知れませんが、もっと生活のなかで患者の病気を考え、社会でどう手助けしてあげたら良いかを勉強したくなり、オーストラリアでソーシャルワークの勉強をして日本に帰ってきました。三年間のブランクも考えず、勤務するなら、診療所それも僻地の診療所でしかないと考え、自分の力量も考えず、赤ひげバンクに登録し、ここに来てしまいました。つくづく、地域住民にはすまないことをしているのではと反省をしています。しかし、反対に、診療所の経営、コストの削減、患者負担の軽減などは以前の勤務医時代の方がはるかに考える機会が多く、こちらではあまり考えられていない状況に、かえって“あれ！診療所って？”と、びっくりしながら、“お役に立てるかな？”とも感じています。



想像はしていましたが、この診療所での医療経験は初めてのことで、だらけです。乳児からお年寄りまで、内科、整形外科、外科、小児科と多方面の診療を、自分にはこんなに力量はないのにと思いながら看護師の方々に助けをいただきながら診察し、医薬品の卸問屋の方々が面会を求めて来られたら、これは以前の病院では事務方の仕事だったなと思いつつ、お話を聞いたりにして日々の診療をしております。

この診療所に来て一番困っていることは、新しい知識、情報を得る勉強が以前に比べると格段に難しくなったことです。診療所には定期購読図書はありませんから、広く読みあさることは出来ません。医学雑誌を手に入れるのも大変ですし、ちょっと勉強会に行きますと言う訳にはいきません。今では、医師会の勉強会が唯一の楽しみとなっています。

中核病院の図書館でも利用させていただければ、三年間の医師としてのブランクをもっとうまくよく克服できるのではと悶々とすることもあります。



もう一つの困っている点は、診療所勤務医師に求められる力量・診療所に求められる機能がは

つきりしていない点です。勤務している診療所は、島の中核病院から15分の所にあります。離島の中にあることを除けば、便利なところと考えられます。以前は村立の国保診療所でしたが、町村合併で新しく町の国保診療所となったため、中核病院と関連させ、診療所に求められる機能、病診連携などいまだに十分討議していない状況です。現在は、真剣に、診療所に求められる機能、役割を中核病院との関連の中で考えていく必要があると考えています。そうすれば、もっと診療所勤務医師として力量アップすべき点、中核病院からの診療所支援をお願いする所が鮮明になっていくように思います。

出来るだけ早く、“診療所の勤務は楽しいですよ”と胸を張って言えるようになりたいのですが、当面は無理のようです。当面の目標は、五十代診療所研修医を早く終了して、五十代診療所専門医になることです。診療所勤務医になろうと決心した初心を大切にして、皆さんが喜ぶ姿を想像して、がんばろうと思っています。



【隠岐の島五箇診療所長 本多】

◇しまね地域医療の会報告


6月25日に、出雲市内で「平成17年度第1回しまね地域医療の会」を開催し、県内の自治医科大学卒業医師や赤ひげ医師など50名に参加いただき、情報・意見交換などを行いました。



各地域の現場で活躍されている先生方から活動状況が報告されたほか、しまね地域医療支援センターの活動状況について説明を行いました。

この会は、情報・意見交換の場であるとともに、先生方がモチベーションを保って島根の地域医療に携わっていただけるよう、昨年度から開催しています。

今後も、島根の地域医療を担っていただいている先生方にとってより有意義なものとなるよう企画してきたいと考えていますし、また、そのメンバーの輪がさらに大きく広がるよう、しまね地域医療支援センターによる様々な事業を展開してきたいと考えています。

【医療対策課 石橋】

◇研修医等定着特別対策事業第1回プログラム委員会開催

＝平成17年度新規事業＝
将来、医学生や研修医の皆さんが本県の医療に従事してもらうための「研修医等定着特別対策事業」は、前号でも説明したところですが、6/24(金)に松江市内のホテルにおいて、第1回目のプログラム委員会及び企画調整会議を開催しました。




この会議において、プログラム委員である名古屋大学附属病院 伴

信太郎教授と自治医科大学地域医療学 梶井英治教授からは、全国から注目されるような研修プログラムの提供内容など貴重な意見を頂きました。今後はこのお二人の委員から、那賀郡及び出雲市民病院における後期研修プログラムの作成に関して支援頂く予定です。

なお、今後の主な事業予定は次のとおりです。

- ①シニア研修ガイダンス(8/6)
- ②地域医療セミナー(8/6～全6回)
- ③初期臨床研修プログラム発展講習会(年2回)
- ④初期臨床研修指導医教育技術向上講習会(年2回)
- ⑤研修医意見交換会、ニーズ調査

【医療対策課 坂本】

県のドクターバンクから

●求人・求職取扱状況

(平成17年6月30日現在)

<求人> 30件

邑智郡(病院)／整形外科、精神科
 浜田市(病院)／内科
 雲南市(病院)／内科
 出雲市(診療所)／胃腸科、肛門科
 邑智郡(病院)／内科、整形外科、在宅医療
 隠岐郡(その他)／不問
 鹿足郡(病院)／内科、外科
 仁多郡(診療所)／内科
 出雲市(診療所)／在宅医療
 那賀郡(診療所)／内科
 鹿足郡(病院)／放射線科、内科、麻酔科
 益田市(病院)／内科、循環器内科、神経内科、呼吸器内科
 松江市(病院)／内科、麻酔科
 浜田市(病院)／内科、放射線科
 江津市(病院)／精神科
 仁多郡(病院)／眼科、内科
 松江市(その他)／不問
 松江市(病院)／内科、リハビリテーション

松江市(その他)／不問
 仁多郡(診療所)／内科、小児科
 雲南市(病院)／麻酔科、精神科
 出雲市(病院)／内科
 松江市(その他)／内科
 浜田市(その他)／内科
 鹿足郡(病院)／整形外科、内科、リハビリテーション
 松江市(病院)／内科、整形外科
 邑智郡(病院)／内科、整形外科、産婦人科、放射線科
 松江市(その他)／不問
 雲南市(病院)／麻酔科、精神科、内科、循環器内科、皮膚科
 出雲市(診療所)／不問

<求職> 1件


希望の担当科／精神科
 ●申し込み手続き及び詳細につきましては、当紹介所までお問い合わせ下さい。
 [電話番号]0852-21-8813(専用電話)
 [ホームページアドレス]
<http://www.shimane.med.or.jp/dcbank.htm> 【担当:吉岡・塩田】

◇自治医科大学主管課長会議報告

6月8,9日に、自治医科大学で都道府県主管課長会議が開催されました。全体会議では、自治医科大学の現況や今年度の方針について説明を受けるとともに、各県間で情報・意見交換を行い、また個別協議では、来年度の入学枠について3名の要望を行いました。

毎年、この会議で楽しみにしているのは、島根県出身の学生との懇談会です。今回も全学生13名が参加してくれました。6年生は、来年からの島根での勤務を前に、意欲的にそして問題意識を持って毎日の実習などに取り組んでいましたし、「下級生に伝え残す」ものを模索しながら、残りの学生生活を送っている姿勢が強く感じられました。また、4月に入学したばかりの1年生は、2ヶ月の間ですっかり大学生らしい表情になっており、元気で過ごしている様子で安心しました。

「島根県出身者みんなで協力しながら県人会を盛り上げたい」という学生たちの言葉をとても頼もしく思いました。県としては今後も、将来の島根の医療を担ってくれるこの若者たちを、全力でバックアップしていきたいと考えています。

【医療対策課 石橋】

研修医のページ その3

＝2年目の研修医師から＝

昨年4月から、スーパーローテーション第1期生として松江赤十字病院で研修をさせていただいています。

4月から1年目研修医も加わり、私たち2年目の研修医と同じ科を回る、いわゆる「屋根瓦方式」で内科をローテートしています。元気な1年目の先生たちと研修をしていると、去年研修を始めたときの新鮮な気持ちを思い出し、身の引きしまる思いでいます。

初期臨床研修2年目も早3ヶ月が過ぎ、いわゆる「進路」について再

び悩む時期になってきました。このローテーション制度は、今まで大半の研修医がとっていた、「専門科に入局」という順序を踏まずに研修を行うことができます。また大学病院ではなく、地域の中核病院で研修するという研修医も多く、3年目の進路の選択肢が増えています。専門科を決めて医局に入局する、今研修している病院に就職する、シニアレジデントとして新たな病院を探す、などです。また、研修前に進路を決めていた研修医でも、ローテーション後に希望科が変わるということはよくあるようで、進路に悩んでいる研修医は多いです。(もちろん、そうでない人もたくさんいます。)スーパーローテーション1期生である私たちの動向は、後輩や先輩方も気になるところなのではないでしょうか。

この新研修制度開始後、私たち研修医を取り巻く環境は大きく変わりました。不安も多くありますが、多くの科で研修できたという経験を生かし、地域医療に貢献していきたいと思えます。

【松江赤十字病院 山田】


◇風に吹かれて12

先日、自治医大の一年生に、医療人間論という講義をしてまいりました。「高齢者とのコミュニケーションのとり方、島根県における地域医療支援」という演題で、2つのことを話しました。

高齢者とのコミュニケーションがうまくとれるかどうかは、地域医療にやりがいを持って取り組めるかどうかに通じるものであり、「高齢者とのコミュニケーションのとり方」は是非後輩たちに伝えたいものでした。高齢者は個人差が大きいこと、敬うべき人生の先達であることなどを念頭に置き、目線を水平にして傾聴し、平易な言葉で説明することが重要である。それとともに、実際に手で触れさせていただくことの大切さを力説しました。

本日、学生からの感想が送られてきましたが、島根県の地域医療の熱心な取り組みが理解できたといった

こととともに、自分なりに高齢者との接し方のポイントがつかめたといった内容が多くありました。研修医、医学生が地域医療の現場で研修する機会が増えております。地域医療機関等に勤務される先生方におかれましては、体験談も含めて彼らの心に残るアドバイスをお願いいたします。

 医療対策課 木村】



島大医学部とスクラム

津和野町連携協定調印。 地域医療発展目指す。

医療や福祉の充実による地域の発展を目指し、島根大学医学部と津和野町が、両者の連携・協力に関する協定を結んだ。同学部と市町村の協定は県内で初めて。医療、保健、福祉での分野で連携し、地域医療の向上や人材育成、情報発信に取り組む。

協定では、医師派遣などによる地域医療体制の整備、健康長寿・福祉のまちづくり政策の実践と発信で協力するほか、ITやケーブルテレビを活用した情報システムの構築、健康をテーマにした新産業開発などを想定。将来の地域医療を担う人材育成や町民参加の学習会なども進める考え。

【山陰中央新報 05.6.4 より抜粋】

None Blue Rose

▼世界遺産を目指す石見銀山遺跡について情報をお届けします。

▽石見銀山遺跡は、東西に長い島根県のほぼ中ほど、大田市、邇摩郡温泉津町、同仁摩町などを含めた広い範囲に分布しており、その中心となる大田市大森町は、JR 山陰本線大田市駅から約 11km の南西部にあります。



17 世紀初頭には支配体制を確立するため、柵を巡らして柵内と柵外を区分しました。この柵内(さくのうち)の範囲は、江戸時代の「正保二年石見国絵図(1645 年)」によれば東西 2.2km、南北 2.5km、面積は約 300ha にもなります。

▽このたび、2007 年 6 月の世界遺産登録に向けた「石見銀山協働会議(仮称)」の初会合が大田市でありました。この会議は石見銀山遺跡の保全や活用策を官民一体となって考え実行するもので、民間から応募のあった 170 人のうち 120 人の参加がありました。

▽住民が参加し、世界遺産の保存や活用策を一から議論し決定する例は、アジアでも初の試みということです。

▼石見銀山遺跡をはじめ、豊富な地域資源を持ち合わせている魅力ある島根県を国内のみならず世界へも情報発信し、注目を浴びたいものです。

▼みなさん、ぜひ島根へおいでください。 Itaru

青い薔薇は園芸家の夢。藤紫、明藤色はあっても真の青はないとのことで BlueRose は不可能という意味。NoneBlueRose は私たちの地域医療への熱いメッセージです。

しまね地域医療支援センターの連絡先
(島根県庁医療対策課)
住所変更がありましたら御一報ください。
〒690-8501 松江市殿町 1 番地
E-mail : iryou@pref.shimane.lg.jp
TEL : 0852-22-5251
FAX : 0852-22-6040
ホームページ[島根の医療] :
<http://www.wah.pref.shimane.jp/med/>

島根県

同日開催

参加者募集 参加無料

地域医療セミナー&シニア研修ガイダンス

● 平成17年8月6日(土) ● 出雲市民会館 ●

〒693-0023 島根県出雲市塩冶有原町2-15 TEL:0853-24-1212

交通:JR山陰本線「出雲市駅」より徒歩15分

地域医療に興味のある大学生の方、奮ってご参加ください

第1回地域医療セミナー『地域医療入門』

- 受付:9時30分～
- 開催時間:10時～12時
- セミナー内容:① 地域医療の素晴らしさ～地域医療へのススメ～
② 島根県の医師確保の取り組み
～先進的な専門医養成プログラムについて～

後期臨床研修プログラムに興味ある方は、どなたでも参加できます

平成18年度後期臨床研修コース合同説明会 『シニア研修ガイダンス』

- 受付時間:13時～
- 開催時間:13時30分～
- ◆ ガイダンス内容:病院担当者によるプレゼンテーションと個別面談
- ◆ 参加予定病院:出雲市民病院 大田市立病院 島根県立中央病院
島根大学医学部附属病院 浜田医療センター
松江生協病院 松江赤十字病院

※参加をご希望の方は、下記まで事前にご連絡をください。

<連絡先・お問合せ先>

島根県健康福祉部医療対策課 〒690-8501 島根県松江市殿町1

TEL:0852-22-5251、5252 FAX:0852-22-6040 E-mail:lryou@pref.shimane.lg.jp

